平成 27 年度 第 2 回学校関係者評価報告書

鳥取県立鳥取東高等学校
 学校長 藤 原 辰 広

評 価 日	平成 28 年 2 月 18 日 (木)	
	評 価 ・ 提 言	学校の所見・改善策等
<p>1. 今年度の自己評価について</p> <p>(1) 重点目標の達成状況</p> <p>① 人間力の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ボランティア活動の「環境整備が不十分」とはどういうことか。 <p>② 学習指導の充実と進路指導の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教科による差が大きいとあるが、何か特徴はあるか。 ・ 「鳥取学」講演会は、いい取組だ。講師の陣容も素晴らしい。生徒には自分の進路を考えるきっかけとなり、とても役立つと思う。 ・ 生徒アンケートで、先生の学習指導への肯定的な評価が高いことはよいことだ。 ・ 将来の夢が語れ、高い志を持つ生徒を育成することを目標としていることは大切だと思う。そういう生徒を 1 人でも多く育ててほしい。 <p>③ 生徒指導の徹底と健康・安全管理の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ネットにつながるゲームや i P a d に関する問題が中学校でも起こっている。保護者対象の講演会などしているか。 ・ 自転車マナーについて苦情が減ったのはよいが、赤信号で横断する、並進することがまだ見られる。雨の日の傘差し運転は減った。 <p>④ 学校運営の点検と教育環境の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 特に意見なし <p>(2) 説明・公表について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 特に意見なし。 <p>2. 今年度の県立学校裁量予算による特色ある学校運営の状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 立川町 5 丁目町内会との交流には何人くらいの生徒が参加しているか。 ・ 障害者との交流は、どんな内容のことをしているのか。 ・ ボランティア活動を広くとらえれば、地域行事で補助員等を務めており、現在でも部単位で多くのボランティア活動に参加していると思う。 		<p>・ 案内はするが、部活動があるため参加しにくいなど課題があることを指している。</p> <p>・ 理科や地歴公民は、科目が細分化され担当者が少ないので、研究授業がしにくい。</p> <p>・ 地域に貢献する生徒を育てていきたい。</p> <p>・ 高校入試の合格者説明会や入学式後に職員が話している。その後もいろいろな形で啓発している。</p> <p>・ 注意を呼びかけていく。傘を差さず、雨に濡れて登校する生徒が多くいる。風邪をひかないか心配する。</p> <p>・ 約 30 人の住民が参加した。学校側は生徒会執行部や吹奏楽部が参加した。</p> <p>・ 三津の白寿苑を吹奏楽部や家庭クラブが訪問している。30 年くらい続いている。</p>

3. 取組改善のための提言

・スマートフォンやボランティア活動そして18歳選挙権など、学校の管理下でない生徒の社会的活動が拡大していく。生徒は自分でしっかりしなければならない。このような事態に学校はどう取り組むべきか考えていかなければならない。・生徒が自分の地域の行事（たとえば夏祭りや防災訓練など）に積極的に参加するよう働きかけてほしい。中学校では部活動単位で地域の一斉清掃や地区運動会の補助員として参加している。自己有用感が得られ地域貢献もでき、生徒にプラスの効果がある。・鳥取東高校の生徒は自分を律するのは当たり前という「東高スタイル」を確立してほしい。そして後輩に受け継がれるようにしてほしい。・推薦入試についてもっと生徒や保護者に説明してほしい。部活動で頑張っている生徒が評価されるためにも。	・それはまさに「21世紀型学力」だと思う。自分で課題を見つけ、解決していく探究型の学力やアクティブラーニング型の授業に取り組んでいかなければならない。・いい御意見をいただいた。本校も近畿高校総合文化祭に多く生徒が参加した。生徒にはいい経験になったと思う。・推薦入試にはさまざまあり難しい点がある。生徒それぞれを見ながら対応している。